

- ◆ 2022年1月26日発行ラインナップ
- ・肥料用だけじゃない 用途が多様な尿素
 - ・モオ〜っと飲みませんか？

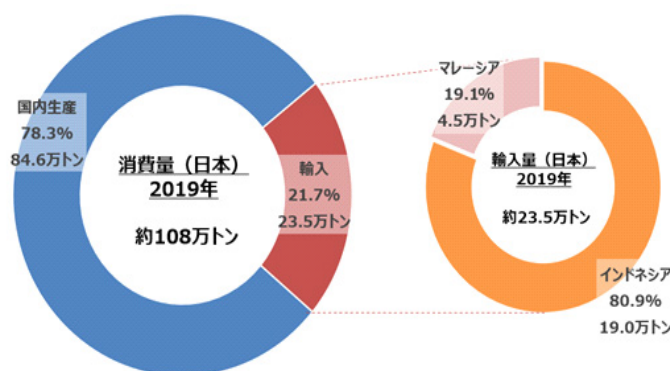
肥料用だけじゃない 用途が多様な尿素

窒素質肥料成分の原料でお馴染みの国産尿素がいま色々な意味で注目されている。昨年10月15日に中国政府が発動した肥料の輸出検査体制の強化により、中国産肥料の供給がタイトな状態にある。隣国の韓国では中国への依存度が高く、昨年11月末からディーゼルのNOx還元添加剤として使用されている尿素水が不足し物流に支障を来しているとの報道がなされた。では、日本はどうなっているのだろうか。資源エネルギー庁の発表によると、尿素を製造するための主原料であるアンモニアの2019年の国内消費量は約108万トン、そのうちの約78.3%となる84.6万トンは国内生産で対応、残りの殆どはインドネシアやマレーシアからの輸入となっており、ほぼ中国一辺倒の輸入に頼っていた韓国とは状況が異なり深刻度はまだ低いようだ。

国産尿素の状況は、メーカーの通常の定期修理時期である10月中旬から11月末時期と重なってしまい、12月は供給量が追いつかず受注をストップしたメーカーもあったものの、経産省は国産メーカーに対して万全の体制で供給するよう指示、また商社は中国以外での調達に奔走している。では、肥料用として利用されている尿素はというと、財務省の貿易統計では2019年7月～2020年6月期の総需要量は37.4万トンとなっている。その内訳は、国産1.3万トン(4%)、輸入品36.1万トン(96%)のシェアとなっており、輸入品の主要産国は1位：マレーシア16.8万トン(45%)、2位：中国13.8万トン(37%)、3位：カタール2.1万トン(6%)、4位：サウジアラビア2.1万トン(5%)、その他：1.2万トン(3%)となっている。先に述べた中国の肥料の輸出検査体制の強化以来、尿素においても中国品の輸入が非常にタイトな状況となっており、全農始め各商社は中国以外の振替調達に追われている状況が続いている。

このような中、農水省は肥料用輸入尿素等の肥料原料調達状況を全農や商社、肥料主要メーカーにヒアリングする動きはあるが、具体的な打開策を見出せない状態にある。肥料用尿素においては国際市況も右肩上がり、中国以外の国で幸いにモノが手当出来たとしても価格は昨年より2倍以上の単価となっている状況だ。肥料原料の買付けはキャッシュオンデリバリーが大原則にて、最大の需要期である春肥向けに原料を調達するための資金繰りも非常に大変な状況で輸入業者は体力勝負となっている。一方、尿素は肥料用だけではなく、多岐にわたって使われていることをご存知だろうか？例えば、凍結防止剤や保湿剤クリーム等の医薬品、食添用原料、染色助剤、ペットボトルのキャップなどの尿素樹脂、有機合成の原料などである。各業界とも、肥料原料と同様にコストアップと調達に苦労している。尿素の化学式は CH_4N_2O の有機化合物であり二酸化炭素とアンモニアの合成で作られているのだが、元の原料は石炭や天然ガスだ。これらの資源は自国では乏しいため、国産品はどうしても原料を海外に委ねなければならない事情から海外品よりも割高となっているのが現状だ。更に肥料の場合は、国が推し進める生産資材費の低減運動に対応している全農の集中購買汎用品に対抗すべく、メーカーや原料調達する各商社はどうしても日本から近距離で輸送コストが少なく済む中国産原料の利用比率を高めてこざるを得なかった訳だ。肥料用のみならず利用用途が多様な生活必需品の尿素、

(次ページへ続く)



(出典)貿易統計及び経済産業省生産動態統計年報

もはや戦略物資のひとつとなっている。今回の肥料原料の国際価格上昇に伴い中国が国内の肥料原料国内価格を落ち着かせるべく輸出抑制を行い国内への供給優先措置をとったことは中国政府の立場からすれば当然の対策であろう。国内メーカーは老朽化している設備が多いと聞くと、食糧安保と直結する肥料原料の安定確保の観点から産地のリスク分散を官民あげて再構築を図る事が大切であろう。

モォ〜っと飲みませんか？ 国産生乳消費拡大にご協力を！

今年の冬は各地で降雪が多く、ここ札幌でも降雪が例年よりも多く排雪が追い付かず除雪作業でうず高く積まれた雪山が道幅を狭め歩行者や車も通り難い状況だ。冬の風物詩、第72回さっぽろ雪まつりが新型コロナウイルスの感染拡大の影響により2年連続の中止となりオンライン形式での開催となる。制作途中であった7丁目会場の雪像の周りに組まれていた足場は撤去され、積み上げていたのであろう作業が止まってしまっていた(右写真)。今年こそ大雪像を見たいと楽しみにしていた方は沢山おられたはずだ。非常に残念だが、公式サイトでオンライン開催の内容が随時伝えられるのでご覧頂きたい。



さて、全国の生産量が圧倒的に多い雪と同じ真っ白な生乳についてご紹介したい。全国生産量の内、北海道の生乳の生産量は半分以上(56%程)を占めており大切な供給基地を担っている。今日では生乳も新型コロナウイルスの影響を受け、牛乳を始め、ヨーグルト、脱脂粉乳、バター、クリーム等が業務用需要低迷の煽りを受け在庫となったようだ。消費が低迷する中で、去る年末年始には牛乳需要の大きい学校関係が冬休みに入ったこと、働き方改革でスーパー等小売店も一部の店舗で休業したことで約5,000トンもの処理ができない生乳が発生する可能性が見込まれるとメディアは伝えた。これを受け、農水省をはじめ各地で消費拡大を促すキャンペーンが活発化した。その中で牛乳の無償提供キャンペーンや半額セール、新商品の開発等により生乳廃棄を回避する取組みがなされた。消費応援の取組みも功を奏し飲用向けの生乳処理が進んだ事や各乳業メーカーの工場フル稼働のおかげで、生乳廃棄の大量廃棄は免れたようだ。とは言え、このような動きは一過性とならないように望みたい。まずわれわれが貢献できる事として朝食にコップ1杯飲んだり、コーヒーに入れてカフェオレとして飲むのもひとつではないだろうか。牛乳と言えばまずはカルシウムのイメージがあるが、それ以外にも脂質、たんぱく質、炭水化物、ビタミン類といったヒトには大切な栄養素を含んでいる。糖尿病や高血圧といった生活習慣病のリスクを減少させるといった研究報告もあるようだ。まだまだ寒い時期が続く為、牛乳を多量に使用し、野菜から栄養をしっかりと取れるクリームシチューはうってつけだ。牛乳を使用した料理のレシピはネットで検索すると特集も出てくるので、献立に迷った時の参考にするのもよいだろう。飲食店でアルコールを飲みたいところだが、今はまん防もあるのでここはグッと堪えて自宅で楽しむ際に、おつまみにチーズはどうだろうか。手軽に食パンにピザ用チーズ、カマンベールチーズやモッツァレラチーズを乗せ、チーズたっぷりのトーストを作るのも楽しいだろう。甘いのが好きな方は、はちみつをかけるとより美味しいですよ。牛乳等乳製品のパッケージの形やデザインを見ると、様々な物があって面白い。各地のご当地商品を取り寄せてみるのも良いだろう。買い物に行かれた際、普段何気なく見ていた乳製品の売り場も改めて良く見ながら少しずつでも国産生乳商品が使われている商品の消費に貢献するのは如何でしょうか。(札幌支店)



オミクロン株が急速に感染拡大しています。東京では病院での受診や、検査を受けることが難しくなっています。感染対策は今一度、気を引き締めて下さいね。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>